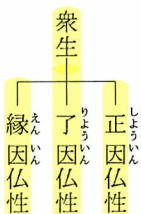
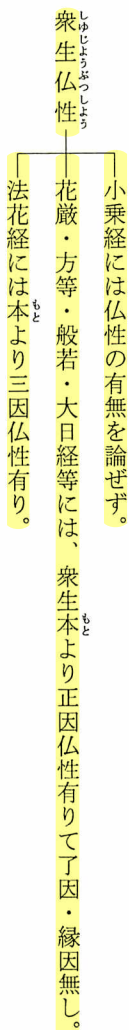
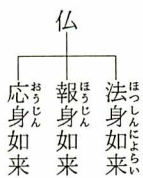


八宗違目鈔

文永九年（一二七二）二月十八日。五十一歳。於佐渡塚原、富木常忍宛。
二十四紙完 京都妙顕寺藏。（定五二五頁 原漢文）

記の九に云く、「若し其れ未だ開せざれば法・報は迹に非ず。若し顕本し已れば本迹 各三なり」。文句の九に云く、「仏三世に於て等しく三身有り、諸教の中に於て之を秘して伝えず」。



文句の十に云く、「正因仏性法身の性なりは本当に通亘す。縁・了因仏性は種子本有なり、今に適むるに非ざるなり」と。法花経の第二に云く、「今此の三界は、皆是れ我が有なり主・国王・世尊なり。其の中の衆生は、悉く是れ吾が子なり親父なり。而も今此の処は、諸の患難多し、唯我一人のみ、能く救護を為す導師」と。